

# 「シチズン・サイエンス」とは

辻本 忠

認定特定非営利活動法人安全安心科学アカデミー

シチズン・サイエンス(市民科学)とは市民によって行われる科学活動の事をいう。活動分野は非常に多岐にわたっている。この活動は今や世界的な広がりを見せている。

ところが、阪神・淡路大震災及び福島第一原子炉発電所において災害が発生した。この時、大勢の市民がボランティアとして「馳せ参んじて」神戸及び福島に集まった。その中に原子力・放射線の専門家もいた。専門家達は環境における放射線(能)の観測・調査等を行った。この時の参加者は原子力・放射線の専門家である。しかし、市民という立場で、市民のための観測・調査を行っているので、シチズン・サイエンス(市民科学)と云われている。

さらに、認定特定非営利活動法人安全安心科学アカデミーは科学技術の問題を市民と共に考え、市民が受身ではなく、自分たちの問題として考える組織で、シチズン・サイエンス(市民科学)と称している。

このようにシチズン・サイエンス(市民科学)という言葉がいろいろなところで使われている。本稿はいろいろなところで使われているシチズン・サイエンス(市民科学)の言葉を取りまとめたものである。

「シチズン・サイエンス」に対して対象的な関係にある言葉に「トランス・サイエンス」である。これは「科学と人間」の問題である。そこで、付録で「科学と人間」についての考察を行った。